



第15回目は**大桑村行政の災害対応**について報告します。

12月定例議会の一般質問にて、行政が想定する避難行動と、共助と公助の連携等について質問しました。今回は行政の回答を踏まえて、避難所で住民が助け合う共助、公的な支援である公助の関係について、現状と今後のあるべき姿について考察しました。

いつ、どこに避難する？

避難する時の判断基準（いつ避難する？）

いつ避難したらよいのか。大桑村ハザードマップでは、住民各自がテレビやインターネットで情報を取得し、**各自が判断**することをガイドしています。役場は長野県や警察署・消防署の情報を基に、村ホームページやエリアメール（現在はLINE）、防災無線放送、広報車、消防団などで、避難を呼びかける想定です。しかし、突然避難指示が出されてもすぐ対応することは難しいようです。

局所的な集中豪雨

普段、須原と野尻では雨の降り方に違いがあることを体験していると思います。村内各地域の雨の様子が細かく分かれば、地区ごとに**事前避難準備**ができるかもしれません。

大桑村には村、県、国交省、気象庁の計6つの雨量計があります。これらの雨量計の情報提供について、一般質問で行政の考えを聞きました。以下が回答です。



「大桑村公式サイトを通じて、村施設の雨量観測値に加えて、県、国の雨量情報も提供の予定」

行政も積極的に情報を発信するように動きます。住民の皆さんもそれらを活用し情報を集めて、行政からの避難指示に頼らず、**自らの命は自らが守る**ように心がけることが大切です。行政からしっかりと情報発信がなされ、住民の皆さんが自身で避難行動を開始出来るよう、今後の行政のアクションに期待します。

避難する先の判断基準（どこに避難する？）

どこに避難するのか。ハザードマップでは村内地区ごとに避難先の指定が書かれています。しかし、幾つかの避難先は土石流警戒区域内であるなど、状況によってはそこに避難して良いのか**判断に迷います**。

一方、村公式WEBサイトの防災情報ページ^{*1}では、全災害に対して役場、須原・野尻地区館や小・中学校の5施設が **指定緊急避難場所** になっていますが、和村や殿、川向、阿寺など右岸から避難するには木曽川を渡らねばならず、**増水時の避難に危険が伴う恐れ**があります。行政の考えを聞きました。

野尻地区館

避難対象地区 上町・旭町・本町・横町・新田地区

住所 大桑村野尻1435-7

電話番号 0264-55-2214

建築年度 平成12年

収容人数 190名

備考 土石流警戒区域内のため使用には注意してください。設備・広さは優良な避難場所といえます。

使用条件

土石流警戒区域	△	●	-
急傾斜地警戒区域	-	-	-

我が家の避難所
野尻地区館は土砂災害の危険がある

出典：大桑村防災のしおり

「ハザードマップをもっと分かりやすく・使いやすく改訂する予定。住民の皆さんも早めの避難をすることで、避難経路や避難先でのリスクを減らすことを心がけて欲しい」

行政によって指定された緊急避難場所にこだわらず、自らの安全を確保するために、地域内での一時避難方法などについて近隣の皆さんと事前に会話することが大切です。



*1: 大桑村防災情報ページ: <https://www.vill.okuwa.lg.jp/kurashi/bosai-bohan/bosaijoho.html>

避難所生活はどうなる？

共助と公助の連携は？

役場等からの情報等により、住民自らが安全を確保しながら避難します(自助)。避難時や**避難所での生活は助け合い(共助)が前提**となります。



多くの人が集まり共同で避難生活を運営するには、**避難所をまとめる共助組織が必要**となります。行政はこの共助組織と連携し、物資配布など避難所ごとに必要な支援(公助)を行うこととなります。この**共助と公助との連携**について行政の考えを問いました。

「行政(公助)と連携いただく共助組織については各地域の実情を踏まえて**地域ごとに検討**して頂きたい」

須原、長野、野尻と地域ごとの実情によって災害の助け合いをまとめる共助組織が異なる可能性があります。どのような組織体であっても、その**地域の組織体が行政(公助)と連絡を取り合い連携**をすることで、その地域の住民の皆さんの安全と安心が確保されることになります。

行政自体の防災訓練は？

どのような災害でも役場が対策本部となります。役場が被災しても行政上の重要なデータが保全された上で早急の業務復旧が求められます。行政自身の防災訓練など日頃の備えについて問いました。

「令和4年以降、訓練は行われていなかったが、**今後早急に訓練実施を行う予定**」

役場職員の本部機能訓練に加えて、村内各地区の共助組織と連携した訓練の実施を行う事で、各避難所との通信練習や避難施設の発電機などの設備機能確認などが実施できれば大きな安心となります。

東部浄水場の水源、土石流災害対応は？

村人口の3分の2の水源保全

村の3分の2に水道水を供給する東部浄水場、実質的に現在稼働している水源は伊奈川支流の水沢にある第2水源のみです。仮に水沢で災害が発生すると、村の3分の2の家の水道水が止まります。水道水源の災害対策を問いました。



水沢にある東部浄水場第2水源



第2水源上流部の水沢の様子

「伊奈川流域で予備的な水源として利用できないかコスト面も含めて検討を進め、**災害時のリスクの低減**ができればと考えている。」

水沢水源のバックアップ水源が設置されることで、**東部浄水場が豪雨災害に強い水道施設**になります。

災害を避けることは困難です。しかし災害に備えることはある程度可能です。共助と公助がしっかりと連携することで、災害に負けない強く安心な村になる事を切に願います。

NHKイブニング信州（12月3日）**撮るしん**で登場した大桑村の桃介公園ってどこにあるの？

多くの方からお問い合わせを頂いた桃介公園、須原発電所の導水管上部の右側にあります。秋は紅葉、春は桜が綺麗な公園です。

